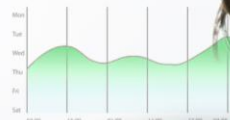


新入社員・若手社員の現場での活躍をご支援！

若手社員現場力アップ 特別3大キャンペーンのご案内

『実践スキルを磨ける』講座がお得に受講できるキャンペーンのご案内です。



ヒンシツ大学公開講座
秋の特別キャンペーン実施中！

キャンペーン期間：2024年9月9日(月)～2024年11月29日(金)

キャンペーンの詳細はSHIFT営業担当者までお問合せください。

講座の料金・受講対象日／キャンペーン概要

■ 通常料金表

	時間	料金(税抜)
通常料金 (1講座)	6～7時間	42,000円 ～50000円

※注意事項：1講座最低受講人数は4名となります

■ キャンペーン料金 (いずれも3講座パック)

キャンペーン	料金(税抜)
業務に慣れ始めた若手社員向け ITスキルブラッシュアップキャンペーン① (品質保証基礎編)	42,000円×3講座 = 126,000円 ⇒ 90,000円!!
業務に慣れ始めた若手社員向け ITスキルブラッシュアップキャンペーン② (品質保証実践編)	42,000円×3講座 = 126,000円 ⇒ 90,000円!!
若手社員をPMへレベルアップ 超実践型プロジェクトマネジメントキャンペーン	50,000円×3講座 = 150,000円 ⇒ 120,000円!!

■ キャンペーン期間 (受講対象期間)

- 2024年9月9日 (月) ～2024年11月29日(金)

■ 適用条件

- キャンペーン期間中に対象講座パックをご購入のお客様

■ 対象講座 (講座形式：オンライン)

- ITスキルブラッシュアップキャンペーン① (品質保証基礎編)**
 ソフトウェアテスト、基本の「き」～ゼロから学ぶ品質センス～
 ソフトウェアテスト入門 ～「テストに関する知識」、「品質に関する知識」を習得～
 テスト観点の作り方 ～ゼロから導くテストの切り口～
- ITスキルブラッシュアップキャンペーン② (品質保証実践編)**
 テスト設計 (機能テスト) ～効率的に漏れの無いテスト設計手法を習得～
 テスト設計 (シナリオテスト) ～業務フロー等を基に網羅的なテスト設計を習得～
 テスト演習 (機能テスト) ～仮想プロジェクトで腕試し - スキルレポート付～
- 超実践型プロジェクトマネジメントキャンペーン**
 要件定義の実践
 プロジェクトマネジメントの実践
 マスターテスト計画書の作成・活用実践

特別キャンペーンの詳細はSHIFT営業担当者、または右記ご連絡先までお問合せください。

株式会社SHIFT

ソリューション本部 デリバリ改革統括部
 能力開発部 ヒンシツ大学グループ
 hinshitsu-univ@shiftinc.jp

業務に慣れ始めた若手社員向け ITスキルブラッシュアップキャンペーン① (品質保証基礎編)

概要

★新人・テスト未経験者向け★

テスト初心者の方を対象に実際にテストを行う事で、テストの奥深さを知り、自身の課題を明確にします。
その後ソフトウェアテストの全体像を学び、品質/テストに対する意識を向上させます。

本講座は、IT現場で新人教育を実施しているお客様の声から生まれました。
新人の品質意識をもっと向上したい、これから初めてテスト業務に携わるので基礎から学びたい、という方にオススメの講座となっております。

本講座では、ソフトウェアテスト専門会社SHIFTで実際に使用されている「テストの基礎知識」「品質に関する知識」を正しく伝授いたします。
用意された仮想業務アプリケーションに対してテストを実施していただき、バグを見つけていただきます。独自手法では非効率であり漏れがあることに気づき、網羅的に品質を確保するためにはいくつかのコツをマスターする必要がある事を理解しながら、グループ演習では、自身が見つけられなかった理由などを話し合いながら講師からの指摘を通して、テストの奥深さを知っていただきます。自身の課題を把握した上で、品質/テストについての基礎知識を学びます。

■受講後の効果

- ・ 開発初心者における品質の捉え方を習得する
- ・ 不具合を実際に見つける事で、どのあたりに問題（バグ）が潜んでいるか、その勘所を習得する
- ・ 品質を担保する意味を理解し、品質/テストの基礎知識を習得する

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/593/>

講義内容

1. テストを体験してみよう

- ・ 講義前のテスト実行体験
- ・ 講義前のセルフチェック
- ・ どうすれば良かったか

2. テストがどうしても必要なのか考えよう

- ・ 作業とそのゴール
- ・ 「良い」「悪い」の基準
- ・ 立場から見た基準の違い

3. テストを上手に実施する方法を考えよう

- ・ 読み易い「指示」とは
- ・ 「うまくできた」ことの確認
- ・ 正確に情報を伝達するには

4. 最後にもう一度、テスト実行してみよう

- ・ 講義後のテスト実行再体験
- ・ 講義後のセルフチェック（問診票）

※内容は変更になる場合もあります。

概要

★ソフトウェア品質のエッセンス全般を学びたい人向け★

本講座では、品質保証の「方法論」の一つである「テスト入門」について学びます。品質とは何かを考え、テストプロセスを学び、テスト技法の基礎を習得し、テスト管理の概要を理解し、品質分析の考え方を学びます。

品質あるいはソフトウェアテストに対する工程・技法・目的を知識を広く学びたい、とお考えの方にオススメの講座となっております。

ソフトウェアテストを漠然と実行していませんか？

テストおよび品質の基本的な考え方・知識をしっかりと身につけましょう！

ソフトウェアテストで効率良く、バグを摘出するには正しい知識とスキルが必要です。

本講座では、ソフトウェアテスト専門会社SHIFTで実際に使用されている「テストに関する知識」「品質に関する知識」を正しく伝授いたします。

個人演習とグループディスカッションを通して、さまざまな知識を習得することができます。

■受講後の効果

- ・ ソフトウェア品質に対する基本的な考え方を身につけることができる
- ・ テスト設計、品質分析、プロセスの基礎的な知識を身につけることができる

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/596/>

講義内容

1 .品質を考える

- ・ソフトウェアテストの役割
(演習) 品質とは？
- ・品質に対する期待
- ・品質モデル
- ・品質を考える

2. テストプロセス

- (演習) テストプロセス
- ・開発工程とテストプロセス
- ・テストレベルとテストタイプ

3. テスト技法

- ・テスト技法の種類
- ・レビュー技法
- ・ブラックボックステスト技法
(演習) 同値分割、境界値分析
(演習) デシジョンテーブル

4. テスト管理

- (演習) テストの立て直し

5. 品質分析

- ・品質分析の目的と手順
- ・ソフトウェア品質のメトリクス
(演習) 品質分析
- ・何をいつ分析するのか

※内容は変更になる場合もあります。

概要

★ソフトウェアテスト設計の初中級者向け★

本講座では、テスト観点の全般的な考え方と、その活用方法を学びます。

ソフトウェアテストの設計を行う際、意識すべき確認ポイントを事前に考え、整理しておくことは、効率的で効果的なやり方です。一方で、テスト観点として作成しようとすると多大な労力がかかったり、作成したけれども実際の業務ではつかいにくかったりということもあるのではないのでしょうか。テスト観点がなぜ必要なのか、どのように導き出し、どのように活用していくのか、座学と演習を通して学んでいきます。

この講座では、身近な例を用いてテスト観点とはどういうものなのかを考え、テスト対象にアプローチする際の視点を整理していきます。そして、整理した視点からテスト観点を導き出す方法を演習を通して習得していきます。

「テスト観点」の基本を理解したいソフトウェアテスト設計の初心者、テスト観点をを用いて効率的・効果的にテスト設計を行いたい中級者の方におすすめの講座です。

■受講後の効果

- テスト観点を理解して、テストの漏れを防ぐために活用できることを知る
- テスト観点を導き出し、整理して、ノウハウとしてのテスト観点を作成できるようになる
- テスト観点を活用して効率的なテスト設計ができるようになる

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/1589/>

講義内容

1. テスト観点とは

- テスト観点とは何かを身近な例を用いて学びます

2. テスト観点的作り方

- テスト対象へのアプローチ方法や考え方を演習を通して学びます

3. テスト観点的活用

- 作成したテスト観点的活用方法について学びます

※内容は変更になる場合もあります。

業務に慣れ始めた若手社員向け
ITスキルブラッシュアップキャンペーン②
(品質保証実践編)

概要

★人気No.1講座★

本講座では、網羅的かつ効率的なテスト設計手法を学びます。実践的な演習を通して、実務ですぐに活用できるスキルを身につけることができます。ユーザーから要求された機能を満たしていることを検証する、ブラックボックステストの代表格「機能テスト」。多くのエンジニアが経験されていると思いますが、実は、この「機能テスト」…奥が深いんです！手法によって生産性、品質を格段にあげることができます。

テストの抜け漏れによって本番稼働後にバグが出る、工数が限られており無限にテストを増やすわけにはいかない、そんなお悩みをおもちではないでしょうか？

- テストケースを減らすと網羅性が落ちる、一方で、網羅性を気にしてテストケースを増やすと時間や工数が足りなくなる。
 - テスト設計の進め方が人によって違うので、テスト密度がコントロールできない。
- 上記のようなお悩みをおもちの方には必見です。

テスト対象をもれなく洗い出す方法や、テスト観点を効率的に展開する方法、適切な組み合わせ技法の選択など、ソフトウェアテスト専門会社SHIFTで実際に使用されている「テスト設計」手法を余すところなく伝授いたします。

■受講後の効果

- 基本的なテスト設計プロセスが理解でき、効率的で必要十分なテストケース設計ができるようになる

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/434/>

講義内容

1. テスト設計の基礎

- 機能テストについて
- 良いテスト設計
- テストプロセスにおけるテスト設計
- テスト設計書フォーマット
- テスト設計書作成プロセス

2. 確認項目一覧作成実践

- 確認項目一覧
- テスト対象の明確化
(演習) テスト内容の洗い出し
- テスト観点
- 確認項目と期待値
(演習) 確認項目一覧の作成

3. パターン表作成実践

- パターン表
- 組み合わせとパターン表
- 因子・水準
(演習) 因子・水準の洗い出し
- 組み合わせの検討
- 組み合わせ削減手法
(演習) 組み合わせの作成

4. テスト設計書チェック実践

- テスト設計書チェックのポイント

※内容は変更になる場合もあります。

概要

★人気No.2★

本講座では、品質保証の「方法論」の一つである「テスト設計（シナリオテスト）」を学んでいただけます。要求定義で活用するユースケース図などのモデリング手法を用いながら、シナリオテストケースに落とし込むまでの具体的な手法を身につけます。

システム全体をブラックボックステストとして捉え、業務フローに沿ったシナリオからテストケースを設定する「シナリオテスト」。ユーザーニーズを満たすためには非常に重要なテストですが、実際に設計してみると漏れや重複が発生しやすく、エンジニアの力量が問われるこの「シナリオテスト」をどう設計するか？シナリオテストで機能テストと同じテストをやってしまう、シナリオとしての網羅の仕方がわからない、という方にオススメの講座です。

本講座では、ソフトウェアテスト専門会社SHIFTで実際に使用されている「テスト設計」手法を余すところなく伝授いたします。システムテスト・受け入れテストで使用する「シナリオテスト」を演習（目的・工程・因子・水準など）を通して学びます。
※「テスト設計（機能テスト）」講座を事前に受講されるとより効果的です。

■受講後の効果

- ・ 網羅的なシナリオテストの設計ができる
- ・ シナリオテストの実行効率を考えられるようになる

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/602/>

講義内容

1 .シナリオテスト設計の基礎

- ・ソフトウェアテストの役割
(演習) 品質とは？
- ・品質に対する期待
- ・品質モデル
- ・品質を考える

2. シナリオテスト設計の実践

- ・アクターを洗い出す
(演習) アクターの洗い出し
- ・シナリオの目的を洗い出す
- ・シナリオの網羅性と着目点
(演習) シナリオ目的の洗い出し
- ・工程にブレークダウンする
- ・因子・水準を洗い出し
- ・確認項目と期待値を洗い出す
- ・テストケースを設計する
(演習) テストシナリオの検討
(演習) テスト手順の明確化

※内容は変更になる場合もあります。



概要

★ソフトウェアテスト講座の総合演習版！★

本講座では、品質保証の「方法論」のある「テスト設計」を総合演習形式で学んでいただきます。テスト設計に関するより高いスキルを身に付けます。また、ご自身のスキルレポートを作成します。「テスト設計（機能テスト）」講座を受講後、実践的にテスト設計を学びたい！という方にオススメの講座となっております。

本講座では、ご自身がおもちのテスト技法などの知識を最大限に活用して、一連のテスト作業を実践形式で実施していただき、テスト設計に関するより高いスキルを習得していただきます。仮想プロジェクトを用意し、ご自身がおもちのテスト技法を最大限に活用して、テスト計画・設計・実行にチャレンジしていただきます。結果はSHIFTが推奨する指標にてスキルレポートを作成します。この「スキルの可視化」により、今後ご自身が強化すべきスキルが具体的に明らかとなります。

※事前に「テスト設計(機能テスト)」「テスト設計(シナリオテスト)」を受講されると効果的です。

■ 受講後の効果

- 既存のテスト知識の活用方法を習得する
- 実践的なテスト設計スキルを、一連のテスト設計、テスト実施、報告のプロセスに沿った実習を通じて習得する
- 自身の保有するテスト設計知識やスキルの課題を理解する

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/604/>

講義内容

1. テスト基礎講座

- 品質とは？開発工程におけるテストとは？
- テスト設計の概要講義（機能テスト／シナリオテスト）
- その他、演習で使用するツールのつかい方や不具合起票方法等の解説

2. テスト計画

- テスト要求（仕様書あり）を基にテスト計画を立案する。
- 演習は、各自方針決めの後、サンプル計画書の穴埋問題。

3. テスト設計

- 計画済みの方針に基づいて、テスト設計を作成する（設計仕様書あり）
- テストタイプとして、機能テストとシナリオテストを対象とする。

4. テスト実行

- あらかじめ用意されたテストケースを各自テスト実行する。
- 実行結果としての不具合報告を含む。

5. 採点と講師解説

- 演習結果の自己採点。講師解説を踏まえて、今後各自がどのようにスキルアップしていくかの自己発表。

※内容は変更になる場合もあります。

若手社員をPMへレベルアップ 超実践型プロジェクトマネジメントキャンペーン

概要

★超上流&上流工程での実践力を身に付けよう★

システム化方針の立案～評価～決定といった超上流工程、および業務要件／システム要件の定義といった上流工程におけるポイントについて学んだうえで、各種の演習により実践力を身につけます。

次のようなお悩みをおもちのチームにおススメです。

- ・システム化したものの、その効果はイマイチ
- ・いつも、開発終盤になって、ユーザ部とシステム部が揉める
 …「こんなシステムじゃつかえない」vs「でも、そうしてほしいといいましたよね」



本講座はPDU(*1)取得対象講座であり、7PDU (Ways/Working:4, PowerSkills:1, Business:2) の取得が可能です。

(*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格

「PMP (Project Management Professional)」の維持に必要な学習単位です。

■受講後の効果

- ・ 業務課題を正しく認識し、対応方針の立案／評価／決定を行い、システム化課題まで落とすことができる。
- ・ システム化課題に対する施策の立案／評価／採用可否決定ができる。
- ・ 新システムのモデル化、つまり、業務フロー(ToBe)と業務処理定義(ToBe)の作成ができる。
- ・ 機能系の定義、UIまわりの定義、データ系の定義ができる。
- ・ 非機能要件の定義を推進することができる。

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/2444/>

講義内容

1. 要件定義の難しさ

- ・プロジェクトの失敗原因と炎上事例
- ・要件定義がむずかしい理由

2. システム化方針の決定

- ・業務課題内容の把握
 (演習) 業務課題の分析対応方針の立案立案
 (演習) 対応方針案の評価と決定

3. 要件定義 – 業務要件

- (演習) システム化課題に対する施策の立案
- (演習) 対応施策の決定
- ・新システムの可視化
 (演習) 業務フロー (ToBe) を作成する
 (演習) 業務処理定義 (ToBe) を作成する

4. 要件定義 – システム要件

- ・機能系の定義
 (演習) UIまわりの定義
 (演習) データ系の定義
- ・非機能要件の定義

5. まとめ

- ・システム化方針の立案と決定～業務要件の定義
 ～システム要件の定義のポイントをおさらい

※内容は変更になる場合もあります。

概要

★PMスキルを網羅的にかつ実践的に身につける★

ソフトウェア開発業務を管理・推進するにあたり、必要となるプロジェクトマネジメントの基礎知識をPMBOKのフレーム（知識エリア／プロセス群）に沿って解説します。
さらに、個人演習やグループ演習を通して、実際のプロジェクトマネジメントを実践いただきます。

次のようなお悩みをおもちのチームにおススメです。

- ・いつも対応がバタバタして、メンバーの作業待ちを発生させてしまう。
- ・進捗の状況、遅れの原因を的確に把握できず、対応が後手にまわり、結果、納期の遅延、コストの超過が発生してしまう。
- ・メンバーのフラストレーションが溜り、チーム内がギクシャクしてしまう。



本講座はPDU(*1)取得対象講座であり、7PDU (Ways/Working:4, PowerSkills:1, Business:2) の取得が可能です。

(*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格

「PMP (Project Management Professional)」の維持に必要な学習単位です。

■受講後の効果

- ・ スコープを明確にし、作業漏れや無駄な作業を減らすこと
- ・ リスクが適切に管理でき、顕在化した際の影響を極小化できること
- ・ 作業工数の見積りができるようになること
- ・ 進捗状況に即した状況分析と対策の立案ができるようになること
- ・ 最適なスケジューリングができるようになること
- ・ スコープ変更に対する適切な対応ができること
- ・ QCDのバランスを配慮した要員アサインができるようになること

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/2451/>

講義内容

1. はじめに

- ・プロジェクトマネジメント／プロジェクトマネジャーの役割
- ・PMBOKとシステム開発プロジェクトとの関連づけ
(演習) プロジェクトを成功させるために何に注力するか？

2. プロジェクトの立ちあげ

- ・プロジェクトマネジャーの任命とプロジェクトの開始宣言～開発関連ドキュメントの確認～ステークホルダーの特定について解説

3. プロジェクトの計画

- ・背景と目的、体制と役割分担
- ・スコープ（対象範囲と対象作業）
(演習) WBS (Work Breakdown Structure)
- ・各開発工程の完了基準
(演習) 工数見積りとスケジューリング
- ・資源計画／コスト計画／品質計画／計画時のリスク分析
- ・各種の管理手法／プロジェクト運営ルールの策定

4. プロジェクトの実行／監視・コントロール

- ・キックオフ・ミーティング
- ・進捗管理（進捗管理の落とし穴と脱出アクション）
(演習) 新たなリスクの洗い出し／分析／対応策プランニング
- ・課題管理とスコープ変更管理

5. プロジェクトの終結

- ・成果物の整理と各種の終了手つづき
- ・振り返りと終了報告書の作成

※内容は変更になる場合もあります。

概要

★限られた期間／予算のなかでどう品質を確保するか★

テスト業務のプロセスを理解したうえで、マスターテスト計画書の位置づけとその内容を詳細に学べます。

さらに、各種の演習により、実践力に磨きをかけることができます

次のようなお悩みをおもちのチームにおススメです。

- ・開発遅延でテスト期間が圧縮され、十分なテストができないまま本番リリース。
結果、重要機能が本番障害が発生！
- ・テストの段取りがいつも後手にまわってしまう。
- ・テストで学んだ教訓が次に活かせない。



本講座はPDU(*1)取得対象講座であり、7PDU (Ways/Working:4, PowerSkills:1, Business:2) の取得が可能です。

(*1)PDUとは、世界規模のプロジェクトマネジメント協会であるPMIが認定する国際資格

「PMP (Project Management Professional)」の維持に必要な学習単位です。

■受講後の効果

- ・ スコープを明確にし、作業漏れや無駄な作業を減らすこと
- ・ リスクが適切に管理でき、顕在化した際の影響を極小化できること
- ・ 作業工数の見積りができるようになること
- ・ 進捗状況に即した状況分析と対策の立案ができるようになること
- ・ 最適なスケジューリングができるようになること
- ・ スコープ変更に対する適切な対応ができること
- ・ QCDのバランスを配慮した要員アサインができるようになること

URL : <https://www.hinshitsu-univ.jp/course/2461/>

講義内容

1. はじめに

- ・マスターテスト計画書とは
- ・テスト全体のプロセスとマスターテスト計画書の作成タイミング

2. インプットとするドキュメント

- ・マスターテスト計画書を作成するうえで参照する文書
(開発プロジェクト計画書／要件定義書／品質標準類)
について解説

3. マスターテスト計画書

- ・背景と目的、体制と役割分担
- ・テスト対象機能
(演習) 漏れのない洗い出しと品質リスクに基づく優先順位づけ
- ・テストアプローチ
(演習) テストレベルとテストタイプの組み合わせ【演習】
- テストベース／自動化方針／成果物定義
- ・テストタスク (WBS)
- ・開始基準と完了基準
- ・スケジュール／資源／コスト／プロダクト品質とプロセス品質
- ・リスク分析／その他管理ルール・手順

4. 各テストレベル別の計画～実行推進～終了報告

- ・テストレベル別計画／方針の策定
(演習) 進捗管理 (ベースラインのモニタリングと対応)
- ・課題管理とスコープ変更管理
- ・テストレベル別の終了報告

※内容は変更になる場合もあります。